

教 育 長 事 務 報 告

月 日	行 事 名	場 所
6月26日(水)	教育委員会定例会	市役所本庁舎
	ワラタネスクエア 表敬訪問	市役所本庁舎
6月28日(金)	市議会第295回 6月通常会議 最終日	市役所本庁舎
6月29日(土) ～6月30日(日)	鬼の館開館30周年記念「特別芸能公演」	鬼の館
7月1日(月)	教育委員辞令交付式	市役所本庁舎
7月2日(火)	北上市立学校適正配置基本計画策定検討委員会	市役所本庁舎
7月3日(水)	公立幼稚園教育研修会 公開保育研究会	更木幼稚園
7月4日(木)	奥羽横断駅伝競走大会実行委員会	横手市
7月7日(日)	社会を明るくする運動北上集会	日本現代詩歌文学館
	根本薫氏北上市市勢功労者表彰受賞祝賀会	ブランニュー北上
7月8日(月)	「夢見る小学校 完結編」上映&講演 &トークセッション 主催者 表敬訪問	市役所本庁舎
7月9日(火)	立花地区市政座談会	立花地区交流センター
7月10日(水) ～7月11日(木)	管外教育事業視察研修	久慈市外
7月16日(火)	(株)ベネッセコーポレーション東北支社 表敬訪問	市役所本庁舎
7月17日(水)	教育委員会定例会	市役所本庁舎
	黒沢尻工業高等学校 表敬訪問	市役所本庁舎

7月 教育長事務報告

- 鬼の館開館30周年記念特別公演 集え若人～岩手の民俗芸能～ 6/30
- 管外教育事情視察研修 県北教育事務所管内 7/10～11
- 第295回北上市議会6月通常会議 6/13～28

【鬼の館開館30周年記念特別公演 集え若人～岩手の民俗芸能～】

- 1 期日 令和6年6月30日(日)
- 2 場所 北上市立鬼の館 屋外ステージ
- 3 主催 北上市教育委員会
和賀ライオンズクラブ

- 4 日程
- ◇ 開会式(10:00～10:10) 主催者挨拶等
- ◇ 各出演団体による民族芸能公演
(10:10～15:00)

「はばたき太鼓」「二子鬼剣舞」
「小鳥崎さんさ」「北藤根鬼剣舞」
「鬼柳鬼剣舞」「岩泉高校・中野七頭舞」
「岩谷堂高校・鹿踊」「花巻農業高校・鹿踊」「道地ひな子剣舞」「行山流鹿踊」

- 5 参加者 約1,050人(演者除き)
- 6 内容及び所感

開館30周年を記念する一か月の掉尾を飾る民俗芸能の公演であり、前日の「北上みちのく芸能まつり GEINO 女子公演」に続いて、多くの来場者で熱気あふれる二日間となった。気温が高く、特に29日は出演者に体調不良者が出たものの大きな混乱等なく、好評のうちに記念月間を締めくくることができた。



集え若人～岩手の民俗芸能～ 二子鬼剣舞の公演

【管外教育事情視察研修】

- 1 期日 令和6年7月10日(水)～11日(木)
- 2 訪問者 中部教育事務所：菊池 康幸 所長 村松 雅彦 教務課長兼主任経営指導主事
西和賀町教育委員会：柿崎 肇 教育長 照井 哲 学務課長
北上市教育委員会：教育長 教育部長 学校教育課長 計7名
- 3 訪問先 県北教育事務所管内の小中学校等(小7、中2、計9ヵ所)
洋野町立種市小学校 副校長 及川 竜太 (1年目)
洋野町立中野小学校 副校長 奥山 実 (2年目)
久慈市立夏井小学校 副校長 所 慎一郎 (3年目)
久慈市立侍浜小学校 校長 佐々木 慎一 (2年目)
久慈市立宇部小学校 校長 齋藤 光喜 (2年目)

二戸市立金田一中学校	校長	遠藤	暢睦 <small>のぶちか</small> (3年目)
二戸市立福岡中学校	主幹教諭	西野	淳一 (4年目)
一戸町立小鳥谷小学校	副校長	菊池	文孝 (3年目)
一戸町立奥中山小学校	校長	中島	敬 (2年目)
同	副校長	渡邊	圭美 <small>たまみ</small> (1年目)

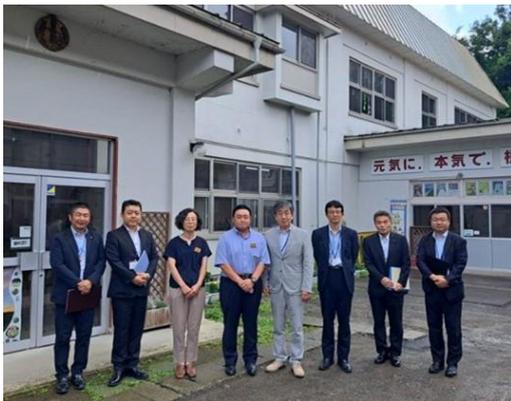
4 日程

< 7/10(水) >

8:40 花巻地区合同庁舎 発
 11:20～11:50 「種市小学校」訪問
 13:10～13:40 「中野小学校」訪問
 13:55～14:25 「侍浜小学校」訪問
 14:45～15:15 「夏井小学校」訪問
 15:40～16:10 「宇部小学校」訪問



久慈市立夏井小学校 所副校長と



一戸町立小鳥谷小学校 菊池副校長と

< 7/11(木) >

9:40～10:10 「金田一中学校」訪問
 10:25～10:55 「福岡中学校」訪問
 11:20～11:50 「小鳥谷小学校」訪問
 13:10～13:50 「奥中山小学校」訪問
 15:15 花巻地区合同庁舎 着

5 所感

この管外教育事情視察は、県北教育事務所・宮古教育事務所・沿岸南部教育事務所の3地区を毎年1地区ごとに訪問し、その地区の教育事情視察と北上地区(北上市・西和賀町)を生活根拠地とする校長・副校長・主幹教諭・指導主事等を激励するために実施しているもの。

感染症への対応で中断をはさんで5年ぶりとなった今回の訪問では、それぞれの職場で元気に活躍する方々から、様々な話を伺うことができた。慣れぬ土地への皆単身赴任であり、生活根拠地である北上市まで長い者は片道250キロにもなる遠路の行き来に苦勞しつつも、一生懸命仕事に打ち込んでいる様子がうかがえた。地元に戻った際には、この経験をもとに北上地区の教育のさらなる充実・発展への貢献を期待したい。

訪問先の個々の教育事情等については、以下のとおり。

◇ 種市小～児童数213

洋野町が、特別支援員を6人配置しており個別に配慮を要する児童への手厚い対応につながっている。担任の負担軽減と他児の学習機会の保障に力となっているとのこと。築

10年の校舎は、中央に大きなホールが配置されるなど開放的で良好な学習環境を実現している。

◇ 中野小～児童数 69

町は全校に地域コーディネーターを配置している。この学校にも長年地域連携に取り組んでいる人材が配置され、地域の教育リソースと学校の教育活動とのマッチングに力を発揮しているようだ。

◇ 侍浜小～児童数 78

令和8年度に150周年を迎えるが、同地区の中学校が久慈中に統合される動きもあり、侍浜地域では、小学校の存続についても複雑な思いもあるとのこと。

◇ 夏井小～児童数 14

極小規模校。夏井川のそばに立地する自然環境の豊かな学校である。他県や他市からの転入があり、極小規模を探して所縁のない夏井小に決めた家庭(父が米国の方)もあるようだ。この日はすれ違いの困難な川沿いの道を通って何とか行き着いた。

◇ 宇部小～児童数 45

昭和11年に寄贈された「学びの鐘」がホールに設置されており、入学時に鳴らし、次に鳴らすのは卒業の日とのこと。入学時に学びへの期待で鳴らした鐘を、卒業の日に自らと友の成長を認め合ってその音色を聴くというストーリーがある。



宇部小 学びの鐘

◇ 金田一中～生徒数 93

校長の熱い思いが迫ってくるような訪問となった。校是の由来ともなった「藍」の栽培に力を入れており、校長自らが手塩にかけて育てている様子がわかる。加えて「演劇」への取り組みが特色として語られた。

◇ 福岡中～生徒数 386

なんといっても先進的な校舎に圧倒された。築10年を経過しているもののいまだにその機能は先進性が色あせていない。防災機能や、体育館・武道場・屋内水泳プールなど体育施設など特にみるべきものがあつた。校内教育支援センターとしている部屋は仕切りのある個別ブースが並び、大勢の人のいる場や他の視線を苦手とする生徒にとっては居場所になりうるものであろう。



福岡中 校内教育支援センター

◇ 小鳥谷小～児童数 22

今年度、学校として最終年度を迎えた。一戸南小学校に統合となるが、合意形成のプロセスの中で、一戸南ではなく、一戸小への統合を希望する声もあつたとのこと。いずれ一戸南小も存続が危うく

なるという事情もあるようだ。急激な少子化を実感させられる話であつた。

◇ 奥中山小～児童数 82

一戸町では、各学校に学校司書を配置している。週3回、4時間勤務の会計年度職員だが、学校図書館経営・子供の読書推進に極めて大きな貢献が認められる。この日の訪問時も、ホールへの掲示や図書の配置・新聞の配架等子供たちの興味を引くような工夫が随所に見られた。



奥中山小 学校司書による図書館経営

【第295回北上市議会6月通常会議一般質問】(6/13～28)

今回の通常会議では、一般質問に17名の議員から通告があり、そのうち教育委員会関係は4名。質問内容並びに教育長答弁要旨は以下の通り。

1 「学校教育の環境の整備促進について」 安徳 寿美子 議員

給食費は、学校給食法第11条により、学校給食の運営に要する経費以外の食材料費として、安全、安心な食材を使用し、バランスの取れた多様な献立を実施するために徴収しているものであり、学用品費と同様に個人が消費するものと捉えていることから、無償化については考えていない。県内では、宮古市や金ケ崎町など11自治体で無償化を実施、釜石市と矢巾町では第3子以降について無償化を実施している。

2 「児童・生徒のいじめ問題への対応と再発防止策について」 高橋 孝二 議員

いじめは人権問題であるという認識のもと、校長会議や生徒指導主事会議において、いじめをうまない学校風土づくりや、早期発見、適切な対応が進むよう改めて共有している。

各校では、「学校いじめ防止基本方針」を定め、担任による日常観察、アンケート調査の実施などにより早期発見に努めるとともに、校内対策委員会で共有し、組織的な対応により事実確認を丁寧に行っているところ。加害児童生徒に対しては、発達段階に応じて、自省の機会を与えるとともに、保護者にも指導の状況を伝えている。

令和5年度に認知した「いじめ問題」についても、これまで述べてきた対応を各学校において丁寧に進めてきている。

第三者委員会の設置については、「北上市いじめ防止基本方針」に則り再調査、いわゆる第三者委員会の調査の実施を判断することになるが、重大事態として認知後、①市長への発生報告②調査主体の決定及び調査③被害側・加害側への調査結果の報告④市長への調査結果の報告、⑤再調査の実施判断及び再調査の実施となっている。

新たに発覚した「いじめとしての認知」についても、「学校いじめ防止基本方針」に則り、認知した都度、事実関係を明らかにし、自省を促す指導を継続している。

スクールソーシャルワーカーの業務は、経済的な支援が必要な家庭や家庭の養育に関する相談等であり、令和5年度に市で新たに配置したスクールソーシャルワーカーへの相談件数は61件で、学校及び保護者からの相談がそれぞれ約4割となっている。

いじめの再発防止策については、いじめは重大な人権問題であることの認識を再確認し、学校教育の在り方について、各学校と意識を共有していかなければならず、未然防止に努めること、積極的に認知と、指導の継続が「重大事態」を防ぐことにつながる。市教育委員会としても「北上市いじめ防止基本方針」に則った着実な対応を進めていく。

3 「こどもまんなか社会の実現について」 千田 優子 議員

教育委員会としては、国及び市の教育振興基本計画との整合や、これから策定される北上市こども計画との調整を図りながら、こどもの視点を尊重して意見を聴取すること、いじめや体罰、児童虐待等こどもの権利の侵害への対応などライフステージに即した取り組みが重要と考えている。

4 「不登校児童生徒への支援について」 佐々木 護 議員

学校では教室以外に、不登校や登校不安の児童生徒の居場所や学びの場として、空き教室や保健室、相談室等を活用している。登校すること自体が難しい児童生徒に対しては、家庭訪問等により学習プリントを届けたり、家庭で一人一台端末を活用しリモート授業への参加ができる環境を整えたりするなど支援を行っている。また、学校外の居場所として、「まなびのサポートセンターなないろ」の利用者も年々増加している。

保護者支援として、担任や学年主任等の対応のほか、スクールカウンセラーへの相談ができるように体制を整えている。学校教育課内に教育相談員を配置し、学校との情報共有やスクールカウンセラーへの接続、「なないろ」や民間フリースクール等を紹介している。「なないろ」では、保護者同士が意見交換をする機会として保護者会を開催した。

関係機関等との連携については、学校が「なないろ」やフリースクール等と連携のためのネットワークを構築することは、不登校児童生徒やその保護者を支援するうえで必要なことであり、既に関係機関と連携を進めている。スクールソーシャルワーカーが3名の配置となったことにより、支援の幅が広がった。教育・福祉連絡会議によるこども家庭センターや地域福祉課と児童生徒や家庭の状況に応じた支援体制の検討や、スクールソーシャルワーカー間やフリースクール、相談事業所との情報共有も行っている。

個別指導支援員は、令和6年度は、5名増の55名を市で任用した。直接不登校児童生徒に対応することは少ないものの、担任教師の負担軽減や不登校児童生徒への対応時間の確保などにもつながっている。今後更なる支援の充実に向けて取り組んでいく。